

孤立防止について

1. これまでの市での取組

①平成 24 年 10 月 孤立防止ネットワーク会議設置

住宅供給事業者、サービス提供事業者、関係機関、市関係各課で構成。地域住民に危機的状況が発生した際の早期発見・早期対応力を強化するため、各関係機関との協力体制を敷くことを目的とする。

②平成 26 年 7 月 高齢者安心コール事業及び高齢者なんでも電話相談事業スタート

安心コールは、利用を希望するひとり暮らし高齢者に対し、専門職等が原則週一回、決まった時間に安否確認の電話をし、もし異変があった場合は、必要に応じて緊急連絡先や在宅介護支援センター等に連絡する事業。なんでも電話相談は、高齢者の日常生活における困りごとや家族等からの見守り相談等に対し、社会福祉士等の専門職が 24 時間 365 日電話対応を行う事業。

2. 個別計画における記述

【高齢者福祉計画・第 6 期介護保険事業計画（平成 27～29 年度）】 P. 41

- ・ひとり暮らし高齢者が多い武蔵野市において、訪問系サービスの整備をさらに進めるとともに、定期巡回・随時対応型訪問介護看護や電話訪問又は相談事業等を充実していく。

【障害者計画・第 4 期障害福祉計画（平成 27～29 年度）】 P. 43

- ・孤立予防の推進として、障害などが理由が閉じこもりがちにならないよう、様々なイベントなどを通じた地域住民との触れ合いや、余暇活動を通じた社会参加の充実を図ります。
- ・武蔵野市孤立防止ネットワーク連絡会議を通じて、ライフライン事業所、住宅事業所などと引き続き連携を図ります。

3. 孤立防止についての長期計画の記載について

【第四期基本構想・長期計画（H17～26 年度）】 P. 60

一人暮らし高齢者などの安否確認や日常生活の不安の相談などを、地域の中で連携して解決するため、「地域社協」を中心に展開している安心助け合いネットワークを一層充実させるよう支援する。また、電気・ガスなどのライフラインの使用状況を安否確認情報として活用するなど、より効果的な仕組みを整える。さらに、傾聴ボランティアを養成し、高齢者の精神的ケアを目的とした電話サービスの実施や I T を活用した支援サービスについて研究する。

※第四期調整計画、第五期長期計画、討議要綱には直接「孤立防止」の文言は登場しない。

4. 討議要綱の意見交換会等における意見について

Q. 閉じこもっていて、周りに関わる機会がない高齢者の方が増えている。高齢者の方から住居を含めて貧困や、生活の困難さについての声を聞くこともある。そういった方々をどう捉えていくかが地域課題として大きいというふうに感じているが、それに関してどのように考えているか、お聞かせいただきたい。

A. ご質問の意図は、高齢者の社会的孤立や閉じこもりに近い問題、それから貧困等の理由で転居等

が激しいことによってつながり等がなくなり、あるいは生活の基盤が喪失しかねない状況があるということだと思う。高齢者の方にとってアンケートの結果によれば、独居の場合、近所づきあいがいない方の割合は36%とかなり多い。この問題をどう解決するかは、これこそ多分地域しかないということになると思う。これまでは、家族や親族が最後は何とかすると思われていたが、それも難しい現状に来ている。プライバシー等の問題等もあるが、地域の中で関わりを作るきっかけを重層的に作るということが恐らく大事であると考え。ただ同時に、これは武蔵野市に限らず世界中で起きている問題なので、1つの解決ではないということ認識し、いろいろな方策をめぐらすことが大事かと思う。孤立等の問題は非常に重要なため、場合によっては策定委員会でさらに持ち帰って検討ができればと思う。